

タマネギ (ユリ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	収穫				タネまき		植えつけ				

品 種

〔黄色種〕 今井早生、泉州黄、OP黄

〔赤色種〕 猩猩赤、湘南レッド

栽 培 ポ イ ン ト

耐寒性はかなり強い反面、暑さには弱いので、秋まきして栽培します。特に致命的な病害はないので、よい苗さえあれば、あとは手がかかりません。しかし、早まきしすぎると、とう立ちが多くなり、おそすぎると小球になりやすく、越冬中に欠損株が多く出てしまいます。したがって10月下旬ごろから11月に園芸店で売られている苗を求めるのが無難です。

湿りけの多い粘質土でよいものがありますが、日当たりのよい所なら、特に土質は選びません。ただし、酸性土には弱い性質があるので、1㎡あたり3握り程度の苦土石灰を、必ず事前に施し、深耕しておいてください。

植えつけたあと、冬の間に乾燥と霜柱にあうと苗が浮き上がるので、ときどき根元を踏みつけてやります。また、切りわりなどを苗床一面に敷くのもよい方法ですし、ポリマルチ栽培も苗を寒さや乾害から守ります。

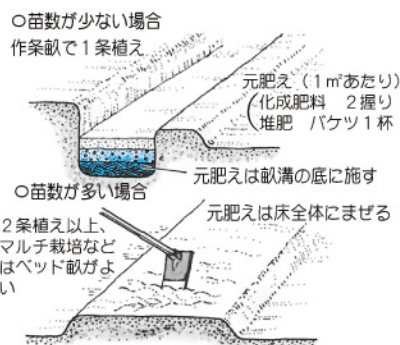
収穫期は初夏で、葉が倒れたころを見はからって、晴天の日に収穫します。それ以前でも、4～5月に葉タマネギとして利用できます。

栄 養

ビタミン、ミネラルのほか、糖質がやや多く含まれています。特有の刺激臭は硫化物によるもので、加熱すると変化し、糖質とあいまって、タマネギ特有の甘みを形成します。

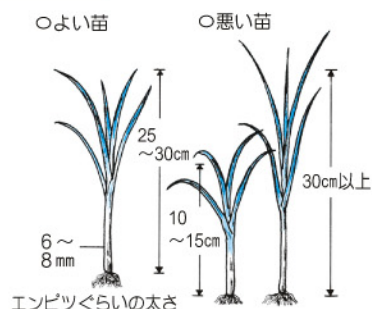
1 畑の準備

あらかじめ石灰を施しておいた畑に、元肥を施して畝を作る。元肥は完熟堆肥を用いる。未熟堆肥は株元の乾きすぎや、害虫発生の原因になりやすい。



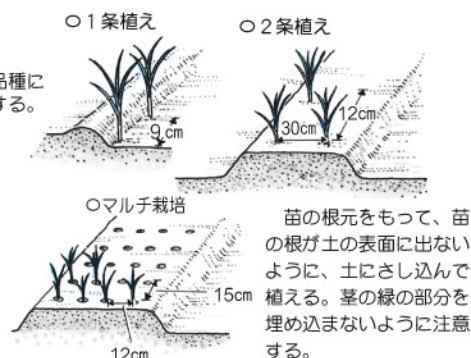
2 植えつけ苗の大きさ

植えつけ時の苗の大きさは、小さすぎても大きすぎても、収量に影響する。また、理想的でよい苗でも、植えつけが早すぎると育ちが速すぎて、春にとう立ちするので、植えつけ時期もたいせつ。



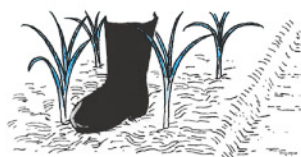
3 植えつけ

植えつけ時期は各品種によって違うので注意する。



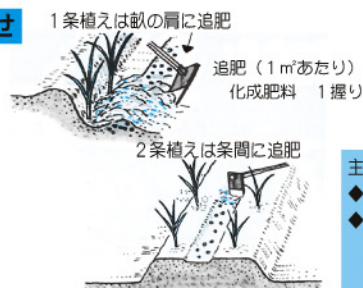
4 寒害の予防

冬の間、霜柱で苗が浮き上がるのを防ぐために、畝に切りわりを敷くとよい。また、畝上に土入れをして根元をよく踏んでやるのも効果がある。



5 追肥・土寄せ

植えつけ後、25日前後と苗が伸びだす3月上旬ごろの2回、追肥を施し、中耕、土寄せを行う。



6 収穫と貯蔵

地上部が全体の7～8割、赤色の湘南レッドは地上部が2割倒れたら、晴れた日に抜きとり、そのまま畑に並べて半日ほど乾かす。

球を傷つけないように葉つきのまま5球ずつ束ね、風通しのよいところにつるしておく。



主な病害虫
◆病気 ベと病
◆害虫 ネギアザミウマ、タマネギバエ、ネギハモグリバエ